

社会科

個人内判断を交流しかかわりを深める社会科の授業

—「食料の輸入を考える」(第5学年)を事例として—

朝倉 淳

1 はじめに

本年度、本校では「生きる力に培う」を主題とし、その2年次として「かかわりを深め、エネルギーが高まる授業」を副題にして、実践研究を進めてきた。それでは、社会科教育の立場からは、「かかわりを深めること」や「エネルギーが高まること」をどのようにとらえればいだろうか。

子どもが社会科の授業を通してかかわる対象は、社会的物事・事象(物事・事象そのものとそれにかかわる人々)であり、まわりの人々(級友、異学級、異学年の子ども、先生、家族、地域の人々)であり、さらにはある程度客観化した自分自身である。かかわりを深めるとは、それらとのかかわりがより強く深いものになっていくという方向を示している。

また、社会科の授業においてエネルギーが高まるとは、公民的資質が育成されることととらえる。ここでいうエネルギーとは、人が行動を起こし継続していくときの心的な原動力・推進力としてはたらくものであり、公民的資質とは、社会に対して主体的にはたらきかけていく実践的な能力・態度である。このように、この二つは非常に近いものだからである。

それでは、どのようにすれば、小学校社会科の授業において、いろいろな対象に対するかかわりを深め公民的資質を育成することができるだろうか。

このような問題意識をもとに、本小論では、次の二点について考察する。

- ① かかわりを深める社会科の授業構成
- ② 授業構成に基づいて開発した第5学年「食料

の輸入を考える」の授業展開と問題点

2 かかわりを深める社会科の授業構成

(1) 社会的判断力を育成する授業構成

公民的資質を育成するという観点から、社会的判断力を育成する授業構成をする。

子どもたちが学習の中で価値的・実践的な判断をするように促すには、次の3点を満たすように授業構成をする必要がある。

- ① 社会的価値葛藤問題を内在する素材を教材化する。
- ② その問題が子どもの問題となるようにする。
- ③ 学習の過程を判断の過程に沿ったものにする。(図1)

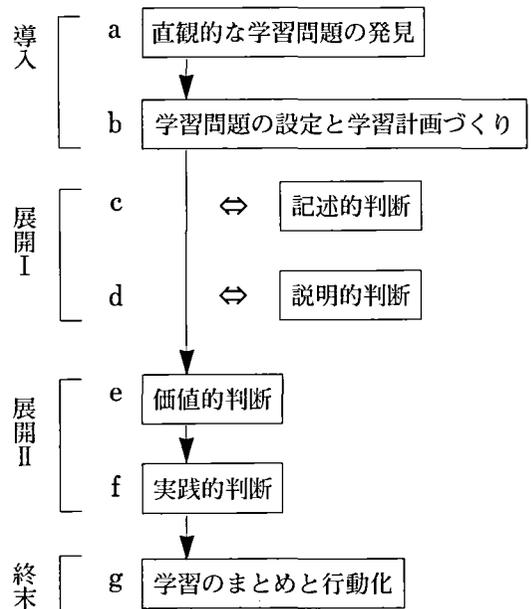


図1 社会的判断力を育成する学習過程モデル⁽¹⁾

(2) 個人内判断を交流しかかわりを深める

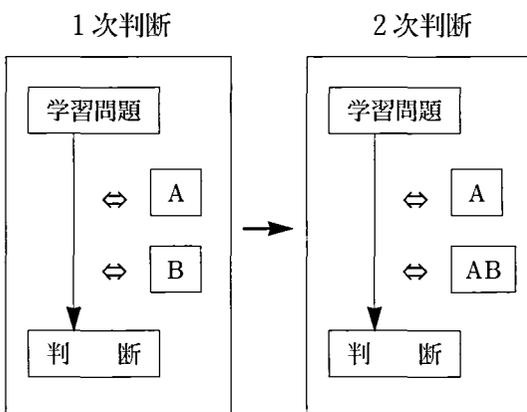
それでは、(1)のような授業構成において、どのようにしてかかわりを深めることができるのだろうか。

図1のc d e fでは、それぞれ図2のような過程を通して、判断を行う。図2の2次判断では、1次判断での各自の個人内判断(C)を出し合い、それをもとに話し合う。この話し合いを通して、各自の判断を交流をしたり吟味したりすることで、自分の判断について確信を持ったり、判断を修正をしたりする。

まず、各自の判断を出し合うことで、子どもたちは、自分とは異なるさまざまな判断に出合うことになる。また、自分と同様の判断にも出合う。このことが、級友とのかかわりの始まりである。

次に、出し合われたことについて話し合い、それを吟味することで、そのかかわりを深めていくことになる。同時に、社会的物事・事象へのかかわりも深まるであろう。

このような話し合いが成立するには、1次判断において、各自が一定の個人内判断に達していることが必要不可欠である。



- A: 既存の経験・知識・概念
B: 調べたり試したりしてみた新たな経験・知識・概念
C: 他人の判断

図2 個人内判断を出し合い話し合う過程⁽²⁾

3 かかわりを深める社会科の授業展開

—「食料の輸入を考える(大単元 私たちの食生活と農業)」(5学年)⁽³⁾—

(1) 単元設定の理由

日本は、世界各国から多くの食料を輸入しており、食料自給率はカロリー率で50%を切っている。食料自給率は、食料の内外価格差がある中で輸入自由化がすすむことでさらに低下の傾向にある。このような状況は、国内の農業経営を困難にしつつある。同時に、食料の安定確保・安全性・低価格の維持という観点からも危惧される問題である。私たちは、将来このような問題に健康・生存を脅かされる可能性もある。生きることの基本である食について日本の置かれている状況を知りそのあり方を考えることは、5年生にとって意義深いと考える。本単元は「わたしたちの食生活と農業」をくくる小単元であると同時に次の「わたしたちの食生活と水産業」に発展する小単元とする。

(2) 単元の目標

- 自分たちの食生活とこれからの日本の農業のあり方についての関心を高めるとともに、外国との関係についての関心を持たせる。
- 食料の安定確保・安全性・低価格の維持の観点から自分たちの食生活とこれからの日本の農業のあり方について考えさせる。
- 新聞の折り込み広告で調べる活動を通して、資料作成の能力を育てる。
- 今日日本はたくさんの食料を外国から輸入していること、食料自給率の低下により食料の安定確保・安全性・低価格の維持に不安があることを理解させる。

(3) 単元の構成

単元の構成については、次頁表1の通りである。また、構想に特にかかわる第3次第2時の授業過程については、次頁表2の通りである。

表1 単元構成「食料の輸入を考える」(全8時間)

次	学 習 課 題	学 習 活 動
第1次 (3時間)	どこからどんな食料をどのくらい輸入しているのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班で、新聞に入る広告を使って調べたり資料を作成したりする。 ・ 班で、調べた結果をまとめ、発表の準備をする。 ・ 班ごとに、結果を発表する。 ・ 発表を通して感じたことや質問や意見を出し合い、話し合う。
第2次 (2時間)	なぜ、こんなにたくさんの食料を輸入しているのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自で仮説をたてて調べ、自分なりの判断をする。 ・ 判断を出し合い、話し合う。
第3次 (2時間)	輸入が増えて何か心配があるだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自で自分なりの判断をする。 ・ 判断を出し合い、話し合う。
第4次 (1時間) (課 外)	これからの農業・食生活はどうしたらいいのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習をふりかえり、各自で題を決めて意見文をまとめる。 ・ お互いに掲示された意見文を読む。

表2 第3次第2時の授業過程

学習事項	学 習 活 動	教師の働きかけ	(集 団)
1. 学習課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題と本時の進め方を確認する。 このまま食料の輸入が増えると、何か心配があるだろうか。 ・ 何か心配があるのかどうか自分の考えを発表しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの学習内容を一部提示しておく。 ・ 本時までには、各自で考えをまとめておく。 	(全) 学習課題を共有化させる。
2. 学習課題の追求 (食料の輸入の問題点) (食料を考える観点)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何か心配なことがあるかどうか話し合う。 ・ 輸入が増えるだけでは心配はない。 ・ 消費者のためには増えた方がいい。 ・ もし輸入が止まったら食べ物なくなり、生きていけない。 ・ 輸入食料の値段が高くなると生活に必要なほかのものが買えなくなり、困る。 ・ 輸入食料には農業や病気などの心配がある。 ・ 農業を止めるようになり、農家が困る。 ・ お金が足らなくなる。 ○ 私たちが安心して食べるには食料にどんなことが必要なのか考えて、これまでの話し合いを整理する。 ・ 十分にあること (安定) ・ 安全であること (安全) ・ ねだんが安いこと (安価) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が考えていなかった観点があることに気づかせるとともに、出し合われたことを吟味しようとする態度を育てる。 ・ 児童の「もし～ならば～であろう。」という考え方についてはその重要性と留意点について指導する。 ・ 理由付けのある発表を評価して、「なぜ心配なのか」と問い直すことを促す。 ・ 児童から出されない内容については、それを見つけるための資料を提示する。 ○ 食料の安定確保・安全性・低価格の維持の大切さに気づかせる。 	(全) ⇄ (小) まず自分なりの考えを出し合わせる。必要に応じて小集団学習をしくむ。
3. 学習のまとめと次時への発展	<ul style="list-style-type: none"> ○ このまま食料の輸入が増えることについて、三つの観点からもう一度考えて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容を振り返らせ、自分なりの判断をさせる。 ・ 記述の内容を、次時の学習課題設定に発展させる。 	(個) 各自で判断する機会とする。

(4) 授業の実際

図3は、第1次・第2次の学習内容を整理したものである。

農産物の流れ

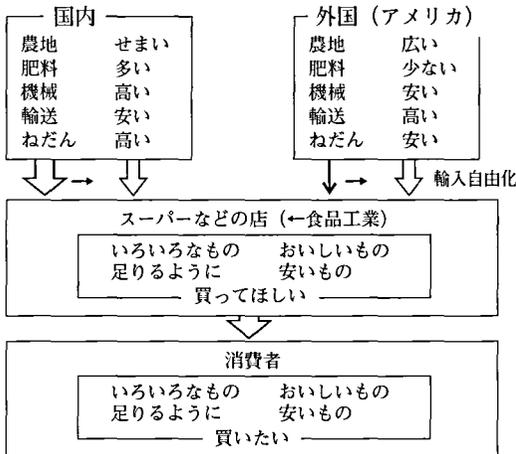


図3 第1・2次の学習内容

このような学習を経て、第3次第1時では、「日本の食用農産物の自給率の移り変り」の表をもとに、学習課題「このまま食料の輸入が増えると何か心配があるだろうか」を設定した。そして、各自で自分なりの判断をした。

以下、第3次第2時の授業記録(一部)を要約して記す。(4)

T: このまま食料の輸入がふえると何か心配があるだろうか。(学習課題)

P: 輸入し続けたらお金がだんだん減っていくから心配。

P: 心配。なれない国の食べ物をいろいろ食べると、お腹が痛くなって病院へ行くようなことがあるというのをテレビで見た。

P: 心配。いっぱい輸入するとだんだん飽きてきて売れなくなってしまって日本が借金、売ってもらってもお金が払えないから。

P: ○○さんと同じで、日本のお金がなくなって消費税が上って困っているのに、また上がるようになって困る。

P: 心配。外国で作ってきた物を日本にずっと送っていたら、日本の工業や農業が外国のものになって、日本の農業なんかは止めてしまう。

P: 輸入ばかりしていると日本のお金がなくなり、輸入品は安いからといって人が輸入品ばかり好むようになると国産が少なくなるから心配。

P: 心配ない。資料集に国内で自給できるのは米、野菜、卵などぐらいいしできないから、輸入を止めたら肉などほとんど輸入にたよっているから食べられなくなって、そのことの方がかえって心配だから。

P: ○○君は輸入ばかりになると農産物を作らなくなると言ったんだけどそれに付け加えて、いきなり輸入されなくなると食べる物がそのときだけ食べられなくなるからそのことを思えばとても心配。

P: 心配。1989年でも5兆は越えているからこのまま輸入を続けるとたいへんなお金を払わなくてはならないようになる。

P: 心配。すべてを止めるというわけではなくて、さっきも○○君たちが言ったように大豆の自給率がかなり低いので、それからできている製品とかが2%ではほとんどの人に行き渡らないから少し止めて、足りるのは止めて足りないものだけにする。

P: お金が減ると言うけど、日本でお金を造って政府にあげればいいんだから心配はない。

P: 違う意見で、1960年から輸入が増えた食べ物は小麦・・・、反対に減ったものは米。米がいっぱい倉庫にたまってしまうので、心配。

P: 輸入ばかりしていると食べきれなくなる。

P: ○○さんに似ている。大豆、小麦は自給率が低い。全部の輸入を止めた方がいいというわけではないんだけど、日本でできるものを作りすぎて余ってしまう。また、日本で作っているものを輸入すると売れなくなって作らなくなるので心配。

P: 余ってしまって腐ってしまう。

P: 心配。○○さんに付け加える。日本の農産物を食べなくなるとどんどん捨てていかないといいなくなって、捨てるのがもったいないとスーパーとかに出さなく自給率が減る。

P：さっき、〇〇さんが言った意見のことなんだけど、米とが余らしているんだけど貯まったら期限がきてスーパーで売れなくなって無駄になるので心配。

P：自給表から言うんだけど、だいたい10%ずつ下がっていて、このままいくと0%になってしまい日本産の物がなくなる。日本で作られる物は輸入しないで日本で作られない物だけちょっとずつ輸入するほうがいい。

T：このような問題を考えるとき、「もし」という考え方は大切。みんなの意見には二つの「もし」がある。「輸入がふえたら」と「輸入が止まったら」。

P：疑問がある。もし海外の物が安いといっても、売れなくなったら腐るだけで、日本産の物を安くする可能性もあるから、そうなったらまた日本産の物を買うようになるかもしれない。

P：国が買ってスーパーが安く売ると、国が払う物が多くなるから予算が減ってくる。

T：……(発言の整理)……食べられなくなるとどうして心配？

P：死ぬ。

P：栄養失調。

P：どうなるかはもう政府が考えていて、そのために備蓄基地を作っているから、少しぐらい止めても死なない。

P：輸入を少しづつ減らすと、日本の自給率は上がる。

T：備蓄基地という言葉、大丈夫？

P：食料をためておく倉庫みたいなもの。

T：……(補説)……。

P：もしも輸入をしまくって、アメリカで売っている物がどんどん高くなったらいけない。

T：輸入が止まることあるのだろうか。あるとしたらどんなとき？

P：輸入している国が食料が作れなくなる。

P：不作。

P：戦争が起きたときも止まったりする。

P：輸入している国に言って止めてもらう。

P：政府が話をしてどれだけ輸入するか決める。

P：日本でおきた大腸菌 0-157なんかで止まる。

P：付け加えて、相談して、日本で作れないものだけ輸入するようにする。

P：もしも外国と日本が仲が悪くなったら、食料を輸出してくれないし日本は輸入できない。

P：〇〇君に意見がある。話し合うと言ったけど話し合っても、その国も輸入してほしいんから止めてくれない。

P：〇〇さんが言ったように、よその国とよその国が戦争したりしてその国が食料をなかなか作れないから、止まるのは作られなくなったとき。

P：二つあって、その一つはその国でとれなくなったら輸出できなくて、もう一つは〇〇さんが意見で言ったように戦争なんかで日本に送る余裕がないとき。

P：〇〇さんに意見。日本は一つの国だけでなくいろいろな国としているからもしある国が戦争してだめでもほかの国が輸出してくれるので輸入は止まらない。

P：〇〇君に意見。どこかとどこかが戦争したとして片方が不利になったときにバックについている国がストップしたりすることもある。

P：輸入が増えても何も起こらない。でも輸入が止まったり止めになると何も食べる物がなくなる。なぜかという、日本はアメリカ合衆国やヨーロッパ各国にくらべ農産物の自給率が一段と低いから。

T：安心して食べるには、どんなことが大切なのか？

(後略)

(5) 第4次に作成した意見文の例

①「農産物の輸入 賛成反対」

自分は賛成です。なぜなら、食料の輸入が止まると日本人は卵や米や野菜しか食べられず、肉や大豆、小麦などが食べられなくて困るからです。しかし、輸入ばかりしていると日本の農業は自分たちの作った物が売れなくなります。自給率が0%になるので、輸入するのは賛成だが、自給率を0%にするのは反対です。

②「このまま輸入を続けるべきか。」

私は、これからも輸入を続けたらいいと思っています。もし輸入がストップすると毎日まともなご飯が食べられなくなり、だんだんと栄養もかたよってきて運がわるければ死ぬかもしれないからです。でも、このまま輸入を続けばなしだと、自給率がどんどん下がって行って最後には0%になるかもしれないので、このまま輸入を続けるべきか分からなくなりました。

③「農産物の輸入自由化反対」

私は農産物などを輸入してほしくないです。日本の農産物は、輸入している物が多いので、輸入をストップしてしまうと食べている物が少なくなってしまうと食べられなくなって困るけど、やっぱり輸入をふやすと国のお金も減るし、農家の人も困ります。だから、全部なくしても、今のままでも、私は少しいけないと思います。その心配を少しずつ安心させるためには、やっぱり、少しずつでもいいから輸入を減らしていくことだと思います。日本産のものも食べて、大豆など、日本での自給率が低いものだけ少しずつ輸入していったらいいと思います。

④「農産物の輸入自由化反対」

私は、農産物の輸入自由化については、反対します。それは、あまりにも輸入にたよりすぎているなら、日本で作った農産物などが売れなくなったりほとんど食べられなくなったりしてしまうからです。確かに、外国からの輸入品があるからおいしくたくさん食べられるのだと思います。でも、農家の人の気持ちになってみると、自分の家で、一生懸命作っているのに、輸入品ばかりで食べていると、作っている意味がなくなります。私が農家の人だったら、簡単に許せることではありません。だからといって、いきなり輸入が止まると、困ります。よくは分からないけど日本の物も、農家の人のことを考えて、輸入品とバランスよく食べていかないといけないと思います。

(6) 考察

ここでは、前述した図2のような過程を通して、実際に子どもたちがどのようにかかわりを深めて

いるか考察する。

個人内判断を交流することを通して子ども同士のかかわりを深めている様相は、授業記録の下線部()などにあらわれている。かかわり方としては、初めのうちは付け加えが多いが、次第に対立する意見も出てきている。このようなかかわりが生まれたのは、あらかじめ各自が自分の判断を持っているからであろう。

また、社会的事象に対するかかわりも深まってきた。例えば、意見文①～④の下線部()からは、他の子どもたちの意見を取り入れながら一つの社会的事象を多角的にとらえようとしていることやその中で自分の判断をまとめようとしていることが読み取れる。

なお、本実践を通して次のような課題が残った。このような授業構成においては社会的価値葛藤問題を素材としている。そのような問題をどのように実感させることができるのか、問題解決にあたり第三者としてではなく当事者としてどこまで近づくことができるか、ということである。

4 おわりに

本小論では、かかわりを深める社会科の授業構成とその展開について考察した。残された課題に対してさらに研究を深めるとともに、新しい単元の開発を進めていきたい。

<注>

- (1) (2) 拙論「社会的判断力を育成する小学校社会科の授業構成」全国社会科教育学会『社会科研究』 第45号、1996年。
- (3) 本授業展開は、1997年5月～6月に広島大学附属三原小学校において5年生を対象に行われた授業研究の結果に基づいて、若干の修正を加えたものである。
- (4) 子どもの発言中の錯誤や不十分などらえなどについては、その都度あるいは後から説明、指導を加えた。